

平成 30 年度下期認定分 ましこ世間遺産一覽

| No. | 世間遺産の名称                                 | 申請団体         | 場所    |
|-----|---|--------------|-------|
| 28  | いしな おど<br>石投げ踊り                         | 益子町青少年クラブ協議会 |       |
| 29  | ふじねぜんじ はか<br>藤根善治の墓                     | 道祖土自治会       | 大字益子  |
| 30  | あたごじんじゃ あき さいれい<br>愛宕神社と秋の祭礼            | 仲之内自治会       | 大字大沢  |
| 31  | えんつうじ こうよう おおいちよう<br>円通寺の紅葉と大銀杏         | 仲之内自治会       | 大字大沢  |
| 32  | たまちちようこくやたい<br>田町彫刻屋台                   | 田町自治会        | 大字益子  |
| 33  | きたましこじゅうにしゃごんげんさま<br>北益子十二社権現様          | 北益子自治会       | 大字益子  |
| 34  | みょうでんじ ががく<br>妙伝寺の雅楽                    | 妙伝寺雅楽会       | 大字山本  |
| 35  | はらちちようこくやたい<br>原彫刻屋台                    | 原おはやし保存会     | 大字山本  |
| 36  | やさかじんじゃ しもおおば<br>八坂神社 (下大羽)             | 下大羽自治会       | 大字下大羽 |
| 37  | あたごじんじゃ しもおおば<br>愛宕神社 (下大羽)             | 下大羽自治会       | 大字下大羽 |
| 38  | さんのみやじんじゃ ちとぬま<br>産宮神社 (本沼)             | 本沼自治会        | 大字本沼  |
| 39  | おやけこふんぐん ふうけい<br>小宅古墳群からの風景360°<br>パノラマ | 亀岡八幡宮里山の会    | 大字小宅  |
| 40  | えんむす き<br>縁結びの木とコウヨウザン                  | 亀岡八幡宮里山の会    | 大字小宅  |
| 41  | いとじんじゃ<br>伊門神社                          | 亀岡八幡宮里山の会    | 大字小宅  |
| 42  | くろいし きよせきぐん<br>黒石の巨石群                   | 亀岡八幡宮里山の会    | 大字小宅  |

## 認定No.28 石投げ踊り

申請団体 益子町青少年クラブ  
協議会

「石投げ踊り」は明治時代を中心に流行した踊りで、そのほとんどが地域単位の伝承によって今日に伝えられている。

雪深い魚沼<sup>うおぬま</sup>の里で親しまれ、やがて各地

に伝わっていった。独特の踊りは、日光和楽踊りの曲に合わせて踊り、体を回転させ水を切る石を投げる動きが盛り込まれている。益子町では町内の青少年クラブが一つに統合される前の約 70 年前から山本地区のクラブで踊られており、現在まで続く非常に長い歴史がある。しかし、町内で踊る機会がなくなり、現在は毎年 8 月に真岡市内で行われる「もおか木綿踊り」で唯一披露している。

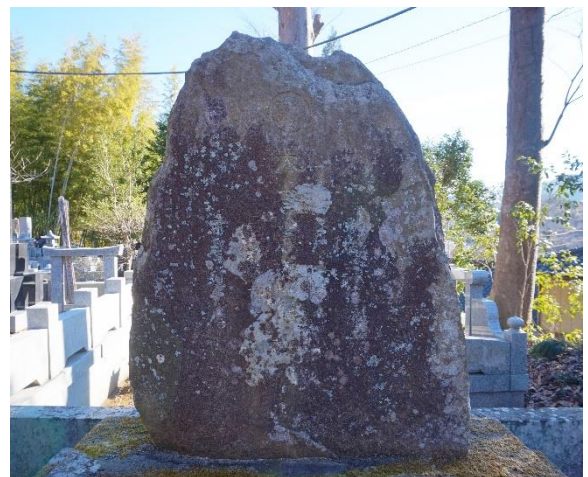


## 認定No.29 藤根善治の墓

申請団体 道祖土自治会

藤根宗三郎善治<sup>ふじねむねさぶろうぜんじ</sup>は、元禄 2 年 (1689) 館林藩重臣首藤民部介<sup>しゅうとうみんぶのすけただむね</sup>忠宗の三男として生まれ、享保 3 年 (1718) 益子村に居住した。当時の益子陣屋代官佐野伊左衛門<sup>さの いざえもん</sup>は藤根の才覚<sup>さいかく</sup>を認め、家中に剣道、学問の指導を行わせた。

享保 12 年 (1727) 3 月、代官が江戸詰となり後任に横暴な松尾佐太夫<sup>まつおさだゆう</sup>が着任した。翌 13 年は大凶作のため下の庄七ヶ村 (益子、七井、生田目、上大羽、深沢、清水、稲毛田) は年貢米が払えず、藤根のおかげで薪納<sup>たきぎのう</sup>に代替された。翌年も凶作で納められず、名主などが投獄された。村人は一揆を計画したが、藤根が間に入り黒羽藩に直訴することで計画をとどめた。直訴の結果、薪納の代替と名主などの釈放が決まったが、直訴が大罪との理由で藤根は捕らえられ、処刑され、正宗寺<sup>しょうそうじ</sup>に葬られた。村人たちは先頭に立って指導してくれた藤根をお焚木様<sup>たきぎ</sup>として尊称し、石碑を建立して供養した。



## 認定No.30 <sup>あたご</sup> 愛宕神社と秋の祭礼

申請団体 仲之内自治会

円通寺南方数百メートルの山中に位置する愛宕神社では、毎年11月に周辺の弁天社（2社）を含めて五穀豊穡に感謝する祭礼が行われている。祭神（ご神体）は古く小さな仏像で、江戸時代につくられたのではないかとされている。祭神は当番が預かっていて、1年ごとに持ち回りで大切に保管している。



祭礼は昔よりやや簡略化されてきているが、朝、3社の境内を清掃するとともに、公民館で男衆がけんちん汁をつくり、祭神にお供えし、神主を呼んで関係者全員で祈祷・お祝いを行った後、愛宕神社に参拝して、甘酒をふるまっている。この風習は少なくとも70年以上継続している。

## 認定No.31 <sup>こうよう</sup> 円通寺の紅葉と大銀杏 <sup>いちよう</sup>

申請団体 仲之内自治会

円通寺の境内は、毎年モミジ・イチヨウをはじめとする紅葉が見事で、インターネット上でも紹介されていることから、町内のみならず遠方からの見物客も増えている。また、近年は夜間のライトアップも行われ、非常に幻想的で、訪れる人々の目を楽しませている。



併せて、国指定重要文化財である「表門」の北側にある大イチヨウは、寺院敷地の最前面に位置しているため、晩秋に円通寺を訪れた人々の目に真っ先に入る。また周辺道路や手前の田畑からも、その見事な姿を見ることができ、地域のシンボルとなっている。



## 認定No.32 田町彫刻屋台

申請団体 田町自治会

文政4年(1821)に注文され、文政12年(1829)に完成した屋台で金具にある「日」の文字は宇都宮の日野町の注文屋台であった証でもある。明治15年(1882)頃に田町の住民が購入した。



特徴は、<sup>くろうるしぬり</sup>黒漆塗彫刻屋台で正

面に<sup>まるぼ</sup>丸彫りの<sup>からじし</sup>唐獅子を配し、<sup>わきしょうじ</sup>脇障子に<sup>ほうおう</sup>鳳凰、<sup>けぎよ</sup>前障子に紅白の梅、<sup>ぼたん</sup>懸魚に牡丹、<sup>こうらんした</sup>高欄下各所に<sup>うつのみやみやがた</sup>繊細な技法を用いた宇都宮々型の華麗で立派な屋台である。

平成元年に町指定文化財になっており、大切に守られながら毎年<sup>てんのうさい</sup>天王祭(祇園祭)に出御し、祭りの一翼を担っている。

## 認定No.33 北益子十二社権現様

申請団体 北益子自治会

益子町大字益子の北部に在する北益子の台地の西端に鎮座するこの十二社権現様は、毎年7月の八坂神社(認定No.10)の祭典のときには真新しい<sup>しめなわ</sup>注連縄を飾り、地元北益子自治会員が家内安全、五穀豊穰を祈願している神聖な神社である。この十二社権現様については、益子地名考にも掲載されている。



この十二社権現様の座する祠の前、すなわち南に延びる直線道路は、役場側から見ると真に北極星に向かって伸びている。このことから昔からこの地域の信仰の対象になっていたことがわかる。

## 認定No.34 妙伝寺の雅楽

申請団体 妙伝寺雅楽会

明治 20 年（1887）初め頃に妙伝寺第 3 世住職てん慶法師が兵庫  
県神戸市より伝えて以来、現在に至る。奉納日は、正月会（1 月 1 日）、  
降誕会（5 月 20 日）、報恩講（12 月 11 日、12 日）で、法要の開始  
時及び終わりに演奏する。演目は



越天楽、五常楽、皇じょう等である。使用する楽器は笙、ひちりき、龍笛、太鼓、  
鉦鼓である。

平成 19 年に町指定無形民俗文化財になっている。

## 認定No.35 原彫刻屋台

申請団体 原おはやし保存  
会

天保 12 年（1841）製作の彫刻屋  
台である。宇都宮市で製作され、明  
治 29 年（1896）、水橋村西高橋か  
ら白木の型で購入し、明治 43 年  
（1910）頃、福島県白河市の職人  
によって現在のような彩色が施され  
た。山本地区の祇園祭には松本屋台  
とともに繰り出し、地域住民が一体  
となって伝統を受け継いでいる。



平成 2 年に町指定有形民俗文化財になっている。



## 認定No.36 八坂神社（下大羽）

申請団体 下大羽自治会

この八坂神社は、農家の五穀豊穰や地域住民の健康安全をこめた夏の祭礼、祇園祭として毎年7月に住民が集い、周辺の草刈りや清掃を行うとともに花飾りなどを作り、祭りを催している。

なお、創建年代を特定できる記述は見当たらないが、社域に建立された石碑群の年代及び益子町で年代が特定できる八坂神社関連の記述では享保年間（1716年～1736年）であり、当該神社もその年代と推測される。



## 認定No.37 愛宕神社（下大羽）

申請団体 下大羽自治会

この愛宕神社は、地域を見渡せる小高い山頂付近に位置し、古くから火伏の願いをこめた地域住民により守られてきたもので、毎年11月には冬の火災予防の願いをこめて祭礼を催し、住民の集いの場として長く親しまれてきた。

なお、通常はこのお社は閉まっているが、11月の第3日曜日に開催される祭礼のときには御開帳される。祭神は2体あったが、1体は盗まれ、もう1体も上部が紛失している。閻魔様に似ていると言われている。

また、創建年代を特定できる記述は見当たらないが、大羽村の存在、地域内神社等の年代、建物状況も鑑みると当該神社も享保年間につくられたものと推測される。



## 認定No.38 <sup>さんのみや</sup>産宮神社（本沼）

申請団体 本沼自治会

主祭神を<sup>このはなさくやひめのみこと</sup>木花開耶姫 命 とする産宮神社は地域住民の心のより所として、元禄5年（1692）から鎮座し永年にわたり愛されてきた。赤塗りの一の鳥居は平成29年に改修され、本殿に上がる階段も平成30年に改修工事が終了した。境内には地域の公民館も併設されており、夏祭りや秋祭りには住民のほとんどが参加する。



茨城県との県境に位置していることもあり、近年はパワースポットと認知され、県内外から参拝する方も大勢見受けられる。

## 認定No.39 小宅古墳群からの風景 360°パノラマ

申請団体 亀岡八幡宮里山の会

亀岡八幡宮西側の古墳群丘陵地は、春は桜と菜の花、秋は<sup>まんじゆしゃげ</sup>曼珠沙華が咲き乱れ、また3月と10月の限られた数日間には、昇る太陽が芳賀富士と重なる絶景を見ることができる。

また天候によるが、四方に目を向けると、東に芳賀富士、南に雨巻山



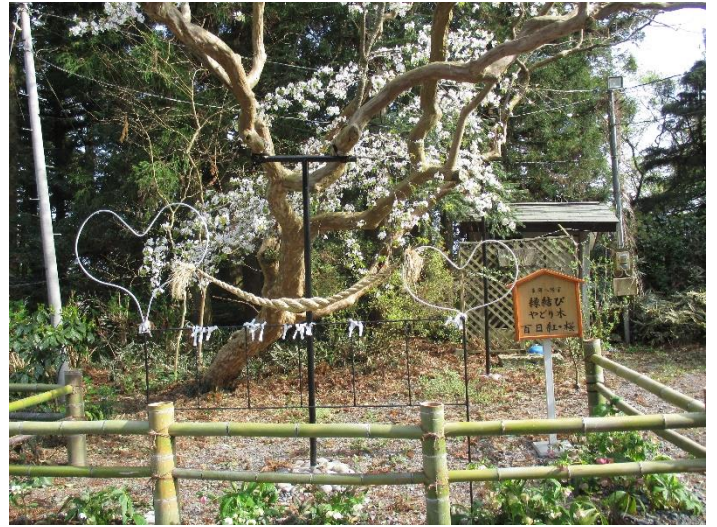
と筑波山、南西に富士山、西に日光連山、北に那須連山を望むことができる。



## 認定No.40 縁結びの木とコウヨウザン

申請団体 亀岡八幡宮里山の会

縁結びの木は亀岡八幡宮境内のサルスベリにヤマザクラが寄生している珍しい樹木。サルスベリの樹齢は136年～200年で、下記のコウヨウザンと同じくらいの時期に植えられたと伝わっている。ヤマザクラは推定35年～40年。時期になるとサルスベリの紅色の花、ヤマザクラの白に近い薄紅色の花が見事である。縁起の良い組み合わせとしてハ



ート型のオブジェを設置し、注連縄を巻いて御神木として大切にしている。

コウヨウザンは、中国南部、台湾、ベトナム等が原産国であり、日本では江戸時代末期に渡来した帰化種である。宮城県や新潟県より南の寺社や公園等に植栽されることが多い。明治14年（1881）には植えられていたことがわかり、樹齢は少なくとも136年は過ぎていると思われる。

## 認定No.41 伊門神社

申請団体 亀岡八幡宮里山の会

祭神は上毛野君かみつねのきみ及び下毛野君しもつねのきみの祖神おやがみと仰がれる第10代崇神天皇すじんの第1皇子みこと豊城入彦命とよきいりひこのみことである。

第12代景行天皇けいこうの御代みよに子孫みの御諸別王もろわけのおうによって現在の小竹（現鎮座地より南東）の地に建立されたと伝えられ、現社殿は明治初期小竹から当社境内に遷座したものである。



なお、平安時代の延喜元年（901）に成立した日本三代実録に記載されている神社で、伊門神いのかみは貞観17年（875）、従五位上の神階じゆを授かっており、県内屈指の古社である。例祭は10月29日、現在は9月八幡宮例祭にあわせ斎行しており、中を見ることができる。



## 認定No.42 黒石の巨石群

申請団体 亀岡八幡宮里山の会

旧小宅小学校から大平へ続く町道 2 号線（小宅大沢線）と、天子<sup>あまご</sup>へ続く町道 11 号線（天子線）との分岐点付近から町道 272 号線（黒石線）が走っており、その町道 2 号線と町道 272 号線に挟まれる形で亀岡八幡宮の社地（飛び地）がある。この一帯は「黒石」という字名であり、地名の由来となったと思われる巨石群がある。



この黒石は安山岩という火山岩の一種で、火山が噴火し流れ出した溶岩が固まってできたもの。地質図ではこの周辺は安山岩と堆積岩がわかれる境目になっていて、道路近くに巨石群があり間近で見ることができる。

また、この巨石群は磐座<sup>いわくら</sup>として祀られていたことがあり、祠は明治時代に亀岡八幡宮本殿に合祀されたが、数十年前までは鳥居が残されていたといわれている。